

# 2021年3月期第2四半期 決算説明資料

2020年11月10日（火）  
株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
キャッシュ・フロー計算書	8
今後の見通し	9

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



# 業績概要

**Kaneka**

カガクでネガイをカナエル会社

(単位：億円)

	2020年3月期			2021年3月期			2Q累計増減	
	1Q	2Q	2Q累計	1Q	2Q	2Q累計	金額	%
売上高	1,488	1,510	2,999	1,266	1,401	2,667	△ 331	△11.1%
営業利益	70	58	128	20	50	70	△ 58	△45.1%
経常利益	55	42	97	8	32	40	△ 57	△58.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	35	26	60	4	20	25	△ 36	△59.0%

- 当社グループ業績は、1Qにコロナ禍拡大により打撃を受けたが、2Qより着実に改善。3Q以降も急速に事業拡大していく。2020年8月12日発表の連結業績予想に変更なし
- 世界経済は、1Qの深刻な落ち込みを脱し、2Qは中国・米国を中心に各産業で回復の動き強まり、欧米での第二波の影響など不透明感はあるが、10月以降は総じて回復ペースが上がる
- 当社グループは、成長機会が拡大している先端事業群（E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement、農業生産支援）が着実に収益を伸ばす
- 1Qの業績の落ち込みの主要因となったコア事業群（Vinyl、MOD、MS、Foam、Fiber、Foods）の生産の停滞が着実に回復、下期にかけて更に業績改善の見込
- コスト合理化の徹底、生産性を最大化する「Smart Work」の実現、事業ポートフォリオ変革を加速



# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	売上高								営業利益							
	2020年3月期			2021年3月期			2Q累計増減		2020年3月期			2021年3月期			2Q累計増減	
	1Q	2Q	2Q累計	1Q	2Q	2Q累計	金額	%	1Q	2Q	2Q累計	金額	%			
Material SU	602	602	1,204	489	556	1,045	△159	△13.2%	56	46	102	29	45	74	△28	△27.7%
Quality of Life SU	385	404	789	297	339	637	△152	△19.3%	37	39	76	12	27	39	△37	△48.2%
Health Care SU	109	110	220	117	128	245	25	11.4%	19	21	40	23	27	50	9	22.7%
Nutrition SU	389	391	780	359	376	735	△45	△5.8%	12	12	24	8	6	14	△9	△39.3%
その他	3	2	6	4	2	6	1	9.6%	2	1	3	2	1	3	1	18.9%
調整額	-	-	-	-	-	-	-	-	△56	△61	△117	△54	△56	△110	7	-
計	1,488	1,510	2,999	1,266	1,401	2,667	△331	△11.1%	70	58	128	20	50	70	△58	△45.1%

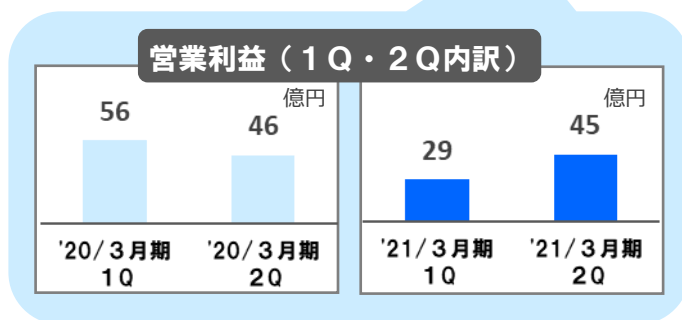
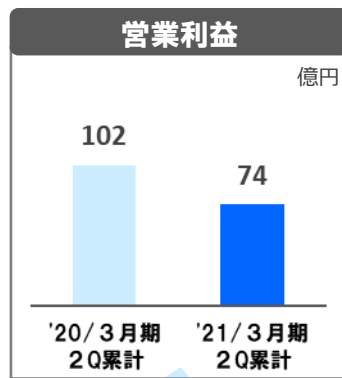
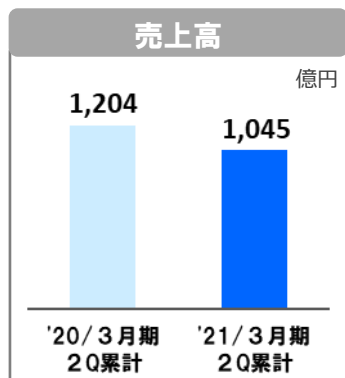
※SU：Solutions Unit

- 全社業績は、1Qから2Qに売上、営業利益とも大幅に回復。特に2Q後半の立ち上がりが顕著である
- 2QのMaterialは前年並みに回復、Healthはコロナ禍のなか売上、利益を伸ばす
- 3Qは、コア事業群は着実に改善、新しい成長軌道への復帰が見えてきた。Pharma・E&Iなど先端事業群は想定を超えるモメンタムを予想する
- R&Bの「選択と集中」、DXの推進により、生産性向上と新たなビジネス価値の創出に取り組む

**売上高** 1,045億円 (対前年同期  $\Delta$ 13.2%)

**営業利益** 74億円 (対前年同期  $\Delta$ 27.7%)

売上高構成比 **39.2%**



## Vinyls and Chlor-Alkali

- ・ インド・中国向けにPVCの輸出大幅増加、CPVCも出荷増
- ・ ペーストの衛生用手袋向け好調、マレーシアはフル稼働
- ・ 2Qは対前年同期で増益

## Performance Polymers (MOD)

- ・ 欧米亜での経済活動再開により需要回復
- ・ 2Q後半から販売数量が前年水準に復調

## Performance Polymers (MS)

- ・ 中国の建築用途に加え、欧米で需要回復
- ・ 2Qは前年並みに復調

## 新規事業

- ・ PHBHは、量産プラント建設決定に向けて最終検討

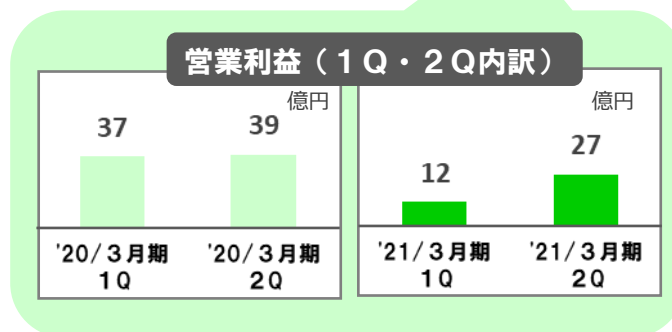
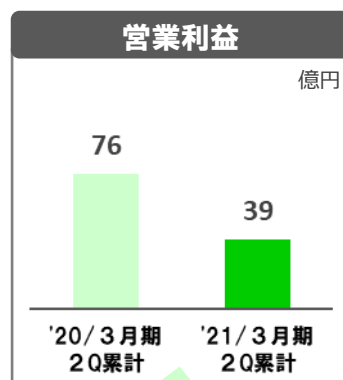
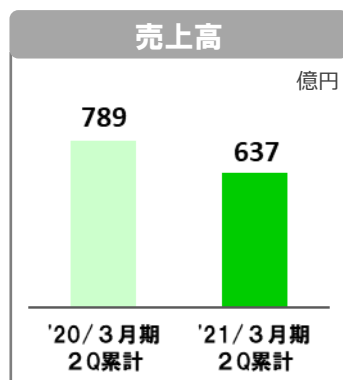


# 事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

**売上高** 637億円 (対前年同期  $\Delta 19.3\%$ )

売上高構成比 23.9%

**営業利益** 39億円 (対前年同期  $\Delta 48.2\%$ )



## Performance Fibers

- ・ アフリカ・米州向けの頭髮・難燃の需要が落ち込み  
アフリカ向けは7月から回復
- ・ 難燃、パイルの衣料用途は回復遅れ

## Foam & Residential Techs

- ・ EPS、KLFは国内需要低調下でもスプレッドを確保
- ・ EPOは自動車向けが回復基調

## PV & Energy management

- ・ 住宅向け高効率太陽電池の搭載率が上昇し販売堅調

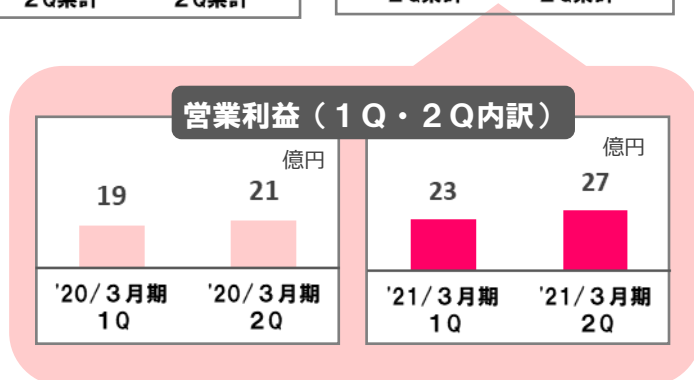
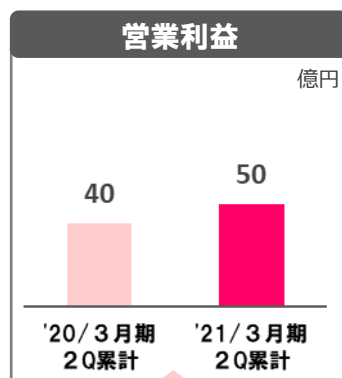
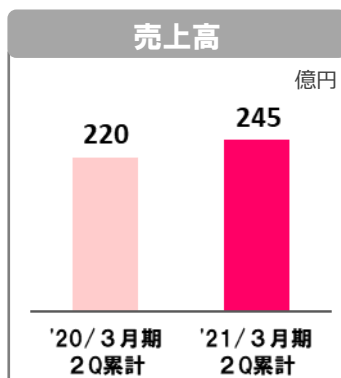
## E & I Technology

- ・ スマホに加え、タブレット・ノートPC向けが好調、  
ピクシオは過去最高レベルの出荷
- ・ 5G向け対応製品が販売増、新製品開発も順調

**売上高** 245億円 (対前年同期 11.4%)

売上高構成比 9.2%

**営業利益** 50億円 (対前年同期 22.7%)



## Medical

- 国内、海外市場ともに拡大
- 脳動脈瘤塞栓コイルが好調、米国向けの販売を9月に開始し収益拡大
- A S O治療用の新規血液浄化器を2021年販売予定

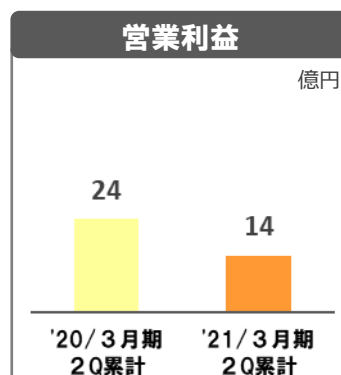
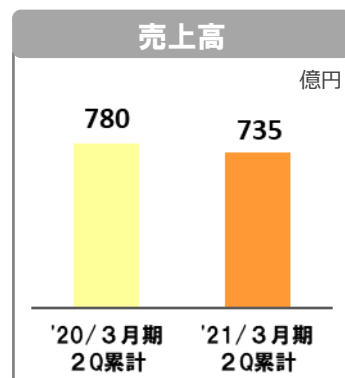
## Pharma

- アピガン原薬、KEGTのPCR検査試薬供給開始などコロナ対策関連で収益拡大、対前年同期で大幅増益
- KEGTでアンジェス社のワクチン中間体製造受注、その他世界大手製薬会社の引き合い増加
- バイオリジクス能力増強設備は10月稼働、早期の次期能力増強を検討中

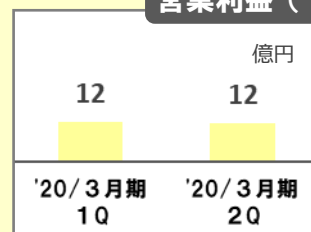
**売上高** 735億円 (対前年同期  $\Delta 5.8\%$ )

売上高構成比 27.6%

**営業利益** 14億円 (対前年同期  $\Delta 39.3\%$ )



**営業利益 (1Q・2Q内訳)**



Supplemental Nutrition

- 米国 免疫力アップの意識向上でQH/Q10が好調
- 今秋、日本でも腸内環境改善効果のある乳酸菌を販売開始

Foods & Agris

- スパイイス製品は堅調
- 製パン・製菓は回復基調もインバウンド不振で回復の足取りは遅い
- カネカグループ商品のオンラインショップ開設、e-コマース拡大等、高付加価値化への取り組み進む





# 貸借対照表

(単位：億円)

	2020年3月末	2020年9月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,069	2,920	△ 149
固定資産 等	3,464	3,523	59
資産合計	6,533	6,443	△ 90
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,308	1,321	12
その他	1,683	1,550	△ 133
負債合計	2,992	2,871	△ 121
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,315	3,343	28
非支配株主持分 他	226	229	3
純資産合計	3,541	3,572	31
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,533</b>	<b>6,443</b>	<b>△ 90</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>50.7%</b>	<b>51.9%</b>	
<b>1株当たり純資産</b>	<b>5,082.08円</b>	<b>5,124.40円</b>	

- 総資産は、売掛金の減少等により減少
- 負債は、買掛金の減少等により減少
- 純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により増加



# キャッシュ・フロー計算書



カガクでネガイをカナエル会社

(単位：億円)

	2020年3月期 2Q累計	2021年3月期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	162	282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 209	△ 228
フリー・キャッシュ・フロー	△ 48	54
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33	△ 30
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 82	23
現金及び現金同等物の期末残高	318	399

- 営業CFは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により282億円の収入
- 投資CFは、有形固定資産の取得による支出等により228億円の支出
- 財務CFは、配当金の支払い等により30億円の支出



- 1Qにコロナ禍の影響を大きく受けたコア事業群は、2Qから月を追って需要回復のペースが上がり、下期は本格的な収益拡大を見込む
- 先端事業群は下期も着実に事業拡大が進む見通し
- 10月以降の業績は改善から再成長のステージへとモメンタムが強まる
- R&Bの「選択と集中」を進め、社会実装のスピード化、事業スケールアップに重点的に資源投入を図る
  
- 未曾有のパラダイムチェンジのなかで健康、安全への価値観が高まっており、重点的に資源投入してきたヘルスケア、エレクトロニクスにかかわる事業を飛躍的に成長させていく
- コスト合理化をはじめとする企業体質の強靱化を図るとともに、先端事業群、新規事業群（PHBH、OLED、再生細胞医療等）に経営資源を重点投入、ポートフォリオ変革加速
  
- ◆ 2020年8月12日に発表した連結業績予想に変更なし

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

<IRに関するお問い合わせ>

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090